令和６年度 ２月園だより

段原みみょう保育園

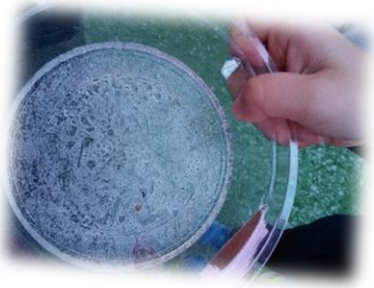
これからの未来をたくましく生きるための力

一段と冷え込みが増す１月中旬。０歳児ひよこ組さんのお部屋に行くと、窓を指さし、外の景色をじっと見つめるＡくんの姿に出会いました。
その指さす先には、窓越しにふあふあと舞い振る雪が…。

Ａくんにとって、きっと初めての雪景色だったことでしょう。粉雪が舞い振る不思議さを誰かに伝えたいという思いで、全身で表現している姿が、愛おしくてたまりませんでした。また、４歳児ひまわり組さんは、２階デッキの芝が凍っていることに気づき、そこから、「なんで氷ができるんだろう？」と疑問を抱き、デッキに水の入った容器を置いて凍るかどうかを試したり、舞い振る雪はどんな形をしているんだろうと、虫眼鏡で観察してみようとしたり、様々な探究が始まりました。「なんでだろう」、「こうしたらどうなるの」というたくさんの疑問が、「知りたい」「やってみたい」という好奇心や探究心に繋がってゆきます。こうした、四季折々の自然事象の経験だけでなく、生活の中で起こる様々な体験や挑戦のすべてが、子どもたちにとって“あそび”であり“まなび”になります。

そして、この毎日の経験の中で、驚きや不思議さ、たくさんの「なんで」、「どうして」という疑問を味わい、試行錯誤することで、自分で考えたり、試したり、判断する力を身につけてゆきます。子どもたちが何かに挑戦しているときは成長しているときです。そんなときは側にいる大人は、子どもたちから求められた時だけ、一緒に考えたり、面白がることで、より子どもたちの好奇心をくすぐり、意欲や探究心、またコミュニケーション力など目には見えない非認知能力と言われる力が育まれていくのです。

昨今、科学技術の発展やグローバル化などにより、私たちを取り巻く社会環境はとても速いスピードで変化しています。これからの未来をたくましく生き抜いていく子どもたちがどのような力を身につけていくべきなのか。それには、乳幼児期の心身を通した豊かな体験と大人との関わりの中で培う力がとても大切なのです。だからこそみみょうでは、子どもたちが登園してきた時から帰るまで「なんでだろう」、「やってみたい」と自ら関わりたくなるような、多様で豊かなあそびを用意していきます。

進級、卒園まで、残り２か月となりましたが、子どもたちが毎日わくわくしながら、新しい挑戦ができるよう一日一日を大切に、子どもたちの今としっかりと向き合いながら過ごして参りたいと思います。

園　長